

学校だより

潮風

令和3年度
第12号
令和4年
2月28日

教育目標 「伸びる喜びを見つけよう」

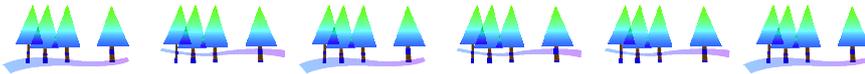
学ぶよろこび (知) 助け合うよろこび (徳) やりぬくよろこび (体)

岩内町立岩内西小学校 TEL 62-0263

<http://www.town.iwanai.hokkaido.jp/nishisyo/>



自分のベストに向かって ～北京五輪選手の言葉より～



岩内西小学校長 佐古岡 香

学級閉鎖や暴風雪による臨時休校など、嵐のような出来事が続いた2月が終わろうとしています。まん延防止等重点措置適用の延長に伴い、3月4日に分散型での実施を計画していた6年生を送る会はビデオ開催に変更しました。直接伝えたり見せたりすることはできませんが、「6年生のために」という在校生の思いは動画であってもしっかりと伝わると思います。

先日、17日間にわたって北京で行われた冬季オリンピックが閉幕しました。日本勢は史上最多18個のメダルを獲得し、連日の報道で大きく取り上げられていました。日本をはじめ各国のアスリートの活躍に興奮冷めやらぬ日々が続いたのではないのでしょうか。そして、選手たちの競技後のコメントも話題となりました。



高木美帆選手「全てを出し切ることができた」

小平奈緒選手「成し遂げることはできなかったけど、やり遂げることはできた」

羽生結弦選手「今できる羽生結弦のベスト。挑戦しきった、自分のプライドを詰め込んだ五輪だった」

悲願の金メダルを手に入れた高木選手、連覇がかなわなかった小平選手、羽生選手それぞれが、自分のベストを尽くしたという清々しい言葉を残しています。前回の平昌五輪から4年間かけてたどり着いた北京五輪、私たちの想像を超えた苦悩があったことでしょうか。全てをかけて戦った姿と言葉はとても心に響くものでした。

心に響く言葉を残したのは日本人選手だけではなく。カーリング日本と対戦し敗退したカナダの47歳のレジェンド、ジェニファー・ジョーンズ選手はこのように述べています。

「メダルを持ち帰りたかった。でも、私たちの子どもたちに勝利が全てじゃないことを見せられたことを願う。自分のベストに向かって努力すること。夢を大きく抱き、後悔することなくそれを追い求めることを」

オリンピックに限らず、全ての人の全ての努力が思い描いた結果にはなりません。だとしても、「努力はムダ」と思いたくはありません。未来がある子どもたちには、なおのことそのように思わせたくありません。ジョーンズ選手の言葉を借りるならば、夢を抱きそれを追い求めようと子どもがベストに向かって努力することができるように、大人、地域、社会が支えていきたいものです。

今年度もあとわずかとなりました。子どもの笑顔と努力を守るため、本校職員一同最後までベストを尽くしたいと思います。

